

MS&ADホールディングス 電話会議（2016年11月18日開催） 2016年度第2四半期決算説明会 質疑応答要旨

2016年11月18日に実施したIR電話会議の質疑応答（要旨）を以下のとおりまとめました。

なお、社名表示は以下の略称を使用しております。

持株会社：MS & ADインシュランスグループホールディングス株式会社

MS：三井住友海上火災保険株式会社

AD：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

MSA生命：三井住友海上あいおい生命株式会社

MSP生命：三井住友海上プライマリー生命株式会社

（中間期実績）

Q1：資料5にある2016年度中間期の国内損保事業のコンバインドレシオが、自然災害を含むベースでも除くベースでも前年同期比悪化している要因について教えてください。MSの悪化幅が大きくなっている要因についても教えてください。

A1：ここでお示ししているコンバインドレシオはリトンベースです。火災保険の正味保険料の大幅な減収が要因です

（通期予想：全般 当期利益）

Q2：2016年度通期の当期利益の予想は、大枠では円高の影響を国内損保の引受収支改善が補い従来の予想据え置きとされていると思います。下半期ではマーケットの状況が変わり、円安、株高、金利高、豪ドル金利上昇という状況ですが、今のマーケット環境が続くのであれば今回の修正予想はかなり保守的と見ていいのか教えてください。

A2：当社は海外の収支は期中の平均レートを使用しているため、昨今の為替により大きく収支が改善することは今年についてはあまりありません。豪ドルの円安に振れている部分や金利上昇については、MSP生命の収支改善の要素となりますが、現状水準では価格変動準備金取崩の範囲内であり、今後さらに円安や金利上昇があれば変わっていきませんが、現時点では大きなプラス要素ではありません。

Q（更問）：MS&ADグループでは平均レートを使うため、今年度の業績にはあまり影響がないが、来年度の業績は良くなると理解して宜しいですか。

A：ご理解の通りです。

（通期予想：経常利益）

Q3：2016年度通期の経常利益の予想の大枠は変更がないようですが、それぞれの事業毎に予想の変更があるのか、連結調整も含めて教えてください。

A 3 : 会社別では年初比の修正は以下の通りとなります。

国内損保事業 : MS +90 億円、AD +20 億円 2 社合計 +110 億円

国内生保事業 : MSA 生命 ▲20 億円、MSP 生命 ▲61 億円 2 社合計 ▲81 億円

海外事業 : ▲95 億円

連結調整等 : +65 億円

(通期予想 : 国内 EI 損害率)

Q 4 : 中間期のMSのEI 損害率が前年比 2.8 ポイント改善していますが、通期ではどの程度を見込んでいるかを教えてください。

A 4 : MSの自然災害を除いた通期のEI 損害率は 54.8%を見込んでおり、年初予想比では 1.2 ポイントの改善を見込んでいます。

(通期予想 : 国内 保険引受利益)

Q 5 : MSの 2016 年度通期予想の保険引受利益が、外貨の備金の為替影響や異常危険準備金等の要素を除くと期初より 80 億円程度の上方修正になっています。異常危険準備金や為替等が動かないとすると下半期の保険引受利益を 460 億円程度と見込んでいると思われませんが、雪害があまりなかった昨年の 300 億円程度よりも強気に見込む要因について教えてください。

A 5 : 項目別の要素は以下の通りです。

アード保険料 +70 億円 (増益要因)

インカードロス +100 億円 (減益要因)

正味事業費 +55 億円 (減益要因)

その他の損益 +100 億円程度 (増益要因)

その他の損益のプラスの主要因は、上半期に大口損害があった海上保険で下半期責任準備金負担が減少するためです。

結果、異常危険準備金前で前年比 +40 億円の増益要因を見込んでいます。

Q (更問) : 昨年は都市部の雪害だけでなく、北日本の雪が少なく冬季の雪害が少なかったのではないかと思います。インカードロス増加が +100 億円程度というのは少ないと思われませんが何か要因があるのか教えてください。

A : 昨年下半年で火災保険等の大口事故が多く、今年は通年通りで昨年ほどは多くはないと見込んでいることも要因です。現時点では想定通りかと見込んでいます。

(通期予想 : 純利益 国内)

Q 6 : 2016 年度通期グループ連結純利益予想の要因分析でインカードロスが年初予想比で 400 億円改善とされていますが、プラス要因の内訳を教えてください。

A 6 : 為替の影響が 238 億円です。残り 162 億円は主に損害率の改善によるもので、主に自動

車保険及び火災保険で中間期の状況を見て見直しを行いました。

Q 7 : 2016 年度通期業績予想の前提として、国内自然災害については年初予想の 625 億円に対して 636 億円と若干の増加を見込んでいるにもかかわらずインカードロスの減少を見込んでいる理由について教えてください。来期に保険金の支払いがずれる可能性があるかも併せて教えてください。

A 7 : 国内自然災害については、微増でありほぼ年初予想並みです。自然災害以外の発生保険金について、主に自動車保険と火災保険で損害率の改善効果を見込んで引き下げています。支払保険金についてもインカードロスの減少により減少するという想定であり、異常危険準備金の取崩もその分減少するという想定で見込みを立てております。

(通期予想：純利益 海外)

Q 8 : 2016 年度通期予想で海外子会社の当期純利益を 440 億円と見込まれていますが、その内訳について年初予想対比も含めて教えてください。

A 8 : 440 億円の内訳（年初予想比）は以下の通りです。年初比では合計 110 億円の減少を見込んでおります。

アジア 142 億円（▲27 億円）、欧州▲23 億円（▲21 億円）、

MS Amlin 212 億円（▲76 億円）、米州 26 億円（▲3 億円）、

再保険 82 億円（+17 億円）

変動の主な要因は、マイナス面では MS Amlin の統合コスト▲35 億円、為替の影響▲37 億円、その他で▲38 億円です。その他の主なものは、MS Amlin の運用環境が 6 月末で悪化し、現時点では一定の回復はするものの通期では年初予想比マイナスを見込むためです。一方、再保険で年初比プラスを見込む理由は、自然災害が上半期に想定以上に少なくその分を引き下げたことによるものです。

Q（更問）：アジアのマイナスの要因および MS Amlin の中間期純利益が 29 億円であるのに対して通期予想を 212 億円と大幅に増加と予想されている理由について教えてください。

MS Amlin の 9 月末決算の状況を見ての見込みなのかを教えてください。

A : アジアの純利益を年初予想比▲27 億円減益と見込む要因は、為替影響が▲11 億円です。残り▲16 億円は、アジア生保事業が金利低下のため責任準備金負担が増加し、年初予想比利益の減少を見込んでいるためです。アジアの損保については、為替影響を除けば年初予想通りです。

MS Amlin について中間期までは運用環境が厳しかったことに加えてカナダ森林火災や台湾地震等の大口損害が 120 億円程度あった影響で利益があまり伸びませんでした。下半期につきましては、運用環境が回復してきています。保険引受面では大口事故についてはまだ確定しておらず、運用面でも今後の環境でぶれる可能性はありますが、9 月末状

況を見て作り直した計画では212億円レベルを展望しております。

Q 9 : MS Amlin の中間期の運用が厳しかったという説明がありましたが、これは評価損がPLに影響したのか、実際に売却損を計上して損が確定したのかについて教えてください。

A 9 : MS Amlin の運用については基本的には評価損であり、6月末の時点では株価の下落および信用のспレッドが広がっていたことが評価損の要因です。

Q (更問) : 6月以降ポンド安が進み、MS Amlin の外貨ビジネスにプラスの影響があると推測していますが、MS&AD グループでは平均レートを使うため、今年度の業績にはあまり影響がなく、来年度の業績がかなり良くなると理解して宜しいですか。

A : MS Amlin では6月以降のポンドの動きも見て計画を作っておりますので、保守的、意欲的ということではなく、フラットに見て計画を策定しているということです。

(通期予想 : コア利益 海外 金サ)

Q 10 : 2016 年度通期業績予想のグループコア利益で海外事業が、年初比 40 億円引き下げとなっておりますが、再保険のプラスはプラスとして残っていると理解していいですか。また、MS Amlin は通期では▲60 億円まで回復する要因について説明してください。金融サービス事業で年初予想比▲40 億円と見込む理由についても教えてください。

A 10 : 海外事業グループコア利益が年初予想比▲40 億と見込む内訳は以下の通りです。
海外連結子会社 ▲75 億円
本体の海外事業 +35 億円

海外連結子会社▲75 億円のうち MS Amlin は約▲60 億円あります。再保険は自然災害が年初予想比減少と見込んでおり+約 20 億円、金利低下によるアジア生保の責任準備金負担増で▲27 億円が要因としてあります。

本体の海外事業は元々収支がマイナスですが、円高影響が逆にプラスに働き+23 億円、残り+12 億円はインカードロスの改善を反映しています。

金融サービスの▲40 億円は、保証保険での大口事故を一定織り込んでおります。

(劣後債)

Q 11 : 本日劣後債による資金調達を公表されましたが、主に生保子会社に充当されるのか資金の用途について教えてください。また、MS が調達するのに比べて持株会社が調達すれば、通常は債券の格付けが1ノッチ下がるかと思われませんが、格付けの見通しについても教えてください。

A 11 : 今回の発表のタイミングでは調達の大枠を決めたただけであり、資金の具体的な用途について決議している訳ではないため確定的なことは申し上げられませんが、資金の用途

としては、ご想像の通りマイナス金利影響で ESR が低下している M S A 生命への資本増強は有力な選択肢です。そのほかに、長期的な投資資金、自己株取得資金等への充当も選択肢として考えています。

次に格付けに関するご質問に関してですが、ご承知のとおり持株会社としては格付を有しておりませんので、現在取得手続きを進めているところです。また、現在審査中のため、確定的なことは申し上げられませんが、M S との比較で格付けがノッチダウンするかどうかは、将来的なレバレッジ比率の見通し等も影響するものと聞いております。

Q 1 2 ; 今回の劣後債発行の大枠の金額内訳と、資金用途の一つに自己株取得資金が挙げられていますが、背景としては、レバレッジをかけていきたいという思いがあるのか教えてください。

A 1 2 : 先ほどのご回答のとおり、現在 1,500 億円を上限として、3 つの発行スタイルで発行することや、大まかな資金用途の可能性について決議したのみですので、これに幾らといったものは未だ決めておりません。

ご理解のとおり、財務健全性を確保しつつ資本効率の向上を図る一環として、今回の調達を行います。その観点から自己株取得についても選択肢の一つとして挙げており、将来的に自己株取得資金として使う可能性もあるとご理解ください。

以 上